

今の中学生

＼＼＼先生の実践から見た

吉田 武雄

はじめに

Y先生は、教員になって14年、女性の国語科教師である。昨春、異動で県都の郊外にある15学級、500人前後の学校に異動した。1年生の学級担任をやり3年生の授業にも出ている。2月初旬、市民団体の主催の会で「中学校の今く子ども同士の関係から」という報告をされた。それを編集部の責任でまとめたものである。紙幅の都合で討議の部分は割愛した。

1 なんでこんなに幼くて不安げなのか

目立つ現象を列挙すると。

遊びの中身が、保育園児と変わらないようなじゃれあ

いをしている。コロコロ鉛筆で遊ぶ幼稚さ、消しゴムなど文房具を自分の物も他人の物も区別しないで、勝手に筆入れから出してシャーペンなどを分解する。プリント物を紙ヒコークにしたり丸めて玉にする。みんなと一緒に笑えない、意識や興味の共有が難しい。言語化が難しい、「障がい」、消えろ、死ねなどの単語を連発するが、まとまった言葉で表現できない。何となく伝わっている不思議。「○○がA先生に○○○○の理由で、階段下で叱られた」などの情報が驚くほどの速さで伝わる。学力差は極めて大きい。長文が読めない・分数計算ができない等々で、1年生の内容が全く分からずに学習不適應を起こしている生徒が少なからずいる。

3年生も始めは教科書の音読を指示すると「なぜ音読か」と抵抗し、授業にならない。私（Y先生）の中学時代に親に反抗した話や失敗談などには耳を傾ける。授業に入ろうとすると、ワーワーとなり、音読は聞かないような声、つつかえ、つつかえになるが、褒めてやっと2か月程で授業は軌道に乗るようになった。

1年生は、あたかも雛がエサを求めて口を開くように「先生、せんせい」と挙手しながら叫ぶ。幼さは2年前の中学生に比べれば、隔世の感がする。では彼ら同士の関係はどうかを見よう。

2 関係のつくり方

「段階1」 攻撃と排除

○バカにされる前に防衛する。複数の小学校から来るゆえに新集団が生まれるまでの関係作りの特徴は、第一にバカにされる前に攻撃すること。A君の例でみると、小太りで鈍くさく、小学校時代からバカにされていた。部活動でも技術が下手で笑われるなど惨め。その不安がもとで授業中に教師に反抗したり、わざとズボンを下げてはいたり、そのことを理解して対応していくうちに、部活もやめ、仲間らしいのもできて、落

ち着いてきた。

○苦手な人はシャットアウト。小学校から「あの子と付き合おうと、皆に嫌われるよ」と言われるA子さんには、誰も近づかない。Aさんも他人に近づこうとしない。したがって話し合い活動はなかなか成立しない。○ちようどよい距離が分らない。他人との交流に必要なマナー（礼儀）が分からず、大人から見るとつまらないトラブルが、しばしば起きる。それを経てやがて小さなグループが形成される。

「段階2」 仲間内では小競り合い、他には無関心

○上になるか下になるか

グループ内での地位が上になるか下になるかは固定的ではない。不安定な関係がつづくからガチャガチャした現象が生起する。学校に来るのは仲間との関係を保つためとも見られ、熱が少しあっても無理して登校する。グループ内の地位の変化が怖いからといえる。

○人の気を引く方法

具体例で示すと、定期テストが終了した直後の国語の授業は図書室に連れて行き、自由読書にした。P君がガムを噛んでいたと聞き司書室へ呼び話を聞いてみると、X君のシャツを切ったという生徒が出てきたの

で、本当か聞くと、「そのとおり、それで僕のシャツも切った」と〇君がはだけてシャツを見せてくれた。

○人の気を引く方法は多様で意想外のことが多い

○全く話し合おうとしない。グループ毎にある程度の棲み分けができてしまうと、他のグループとは全く没交渉になる。話し合おうとしないからクラス全体が協力とか、まとまるとかはできない。全く他人とコミュニケーションをとらない生徒がいる。

【段階3】 関係を絶えず確認する

○「くさい」で確認

おまえ、「くさい」という語が11月頃から流行りだした。最初は本当にいやがらせで言っていた。だんだん仲間内で使うようになった。しかしそれを使うのは上位のグループで、「くさい」と言い合える仲間の関係を誇示するかのように見える。生徒の別のあだ名をまねして使ったときは「先生は言うな」と言った。最近は使用頻度が減ったと思ったら、別の新しい行動になっていった。

○逸脱行動で確認

グループメンバーすべてで、同じネックウオーマーをつける。学校に持ってきてはいけないもの（不要物）

を持参する。女子は他からは見えにくいですが、服装の一部を同じにして確認しあう。

○確認がうまくいかないと

グループメンバー同士が常にくっついている。授業までそれが持ち込まれる。例えば、「くさい」の語が授業中にも連発されるなど。

3 少しだけ前向きになった

○ガチャガチャ度がうすまった

秋には攻撃や排除がめつたに見られなくなり、やや落ち着きのような雰囲気が出てきた。合唱コンクールが迫ったが、リーダーがいらないから練習にならない。

○ほめると喜ぶようになった

合唱がうまいとほめたら素直に喜び、賞が取れるかと少し期待したが、外れた。コンクールが終わった時にどつと疲れが出て、思わず私の眼から涙がポロポロとながれた。感動の涙と誤解した者もいたようだ。

○しかればシュンとするようになった

このことは授業を進めるうえでメリットになった。もちろん生徒指導でも有効になった。絶えず冷静に接してきたが、今日は怒った。班長会を記録も取らずに

解散しようとしたから、「ふざけるな」と100%の声で言った。「あつ、やばい、ぼくが書きます」とかかって落着した。

○がんばろうとするようになった

1学年全体が明るい雰囲気になってきた。しかし今日はスマホ事件でここに来るのも遅れた。事件とはスマホを持参した子どもに対して親に電話で伝えるが、親は仕事で帰宅が遅いからどうしても7時とかになつてしまう。教員の疲れも並大抵でない。長い目で見て、焦らず、必ず成長すると、すこしずつ働きかけてきたことが報われつつある、と思う。「まとめ」はしないが、先任の学校と比べてもこのような事件はなかったし、このような地域に過こし成長せねばならない子どもたちは容易ではないと考える。

(文責・所員、吉田武雄)

4月の旅立ちに異変？

大学進学率が減少しています

4月は旅立ちの季節。大学入学の季節でもありません。ところが最近すこし気になる数字を目にしました。一つは右肩上がり伸びていた大学進学率が低迷、減少しています。2011年度の大学・短大進学率(過年度卒含む)は51・7%でしたが、翌2012年度は50・8%に減少しています(大和総研調査)。

ここ数年は大学進学率が50%台で低迷しています。理由の一つは18歳人口の減少にあります。ほかにも不況による親の年収の減少と高学費が背景にあると思われ。年収200〜400万円未満の家庭の平均学費負担率が58・0%という数字もあります。奨学金を借りて卒業しても就職難が待ち構えており返済に四苦八苦します。だから高リスクをおかしてまで入学することに躊躇することになります。年収1,000万円以上の家庭の大学進学率は6割ですが、400万円以下では3割に低下しています。本人に学力があっても親に経済力がないと大学が入りにくくなっています。

(大滝)